

土地分類基本調査

「美 濃」

5 万分の 1

國 土 調 査

岐 阜 県

1 9 9 2

序 文

この調査は、国土調査法に基づき国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するために国土の実態を科学的かつ総合的に調査したものです。

本書は、平成2年度から平成3年度にかけて調査した5万分の1地形図「美濃」について「美濃」図幅として、取りまとめたものです。

この調査の実施に当たって協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、県土の秩序ある発展を図るための企画・立案の基礎資料として広く活用されることを希望します。

平成5年3月

岐阜県企画部長 瀬瀬 正彦

ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 本調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、下記のとおりです。

記

総 括	岐阜県企画部地域振興課	課 長	西田 宏
	〃	土地利用対策監	宇野日出夫
	〃	土地計画調査 担当課長補佐	佐藤 真治
	〃	技 術 主 査	小原 順治
調 査 機 関			
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教 授	関根 清
表層地質調査	〃	教 授	梶田 澄雄
	〃	助 教 授	小井土由光
土 壌 調 査	岐阜県農業総合 研究センター	主任専門研究員	山田 偉雄
	岐阜県林業センター	主任専門研究員	中川 一
	〃	主 任 技 師	川尻 秀樹
	〃	主 任 技 師	茂木 靖和
土 地 利 用 現 況 調 査	岐阜大学農学部	教 授	綱本 皓二

目 次

総 論

I	位置および行政区画	1
II	人 口	2
III	産 業	4

各 論

I	地 形 分 類	9
II	表 層 地 質	14
III	土 壤	19
IV	土地利用現況	34

位置図



		下 梨	白木峰	有峰湖	槍ヶ岳
		白川村	飛騨古川	船 津	上高地
	越前勝山	白 山	三日町	高 山	刺 鞍 岳
	荒島岳	白 鳥	萩 原	御 岳 山	木曾福島
冠 山	能郷白山	八 幡	下 呂	元年度調査 加子母	元年度調査 上 松
横 山	谷 汲	2年度調査 美 濃	63年度調査 金 山	62年度調査 付 知	62年度調査 妻 籠
42年度調査 長 浜 (経企庁)	57年度調査 大 垣	58年度調査 岐 阜	48年度調査 美濃加茂 (経企庁)	61年度調査 恵 那	61年度調査 中 津 川
59年度調査 彦根東部	59年度調査 津 島	名古屋北部	58年度調査 瀬 戸	60年度調査 明 智	60年度調査 根 羽
	59年度調査 桑				

總

論

I 位置および行政区画

1. 位置

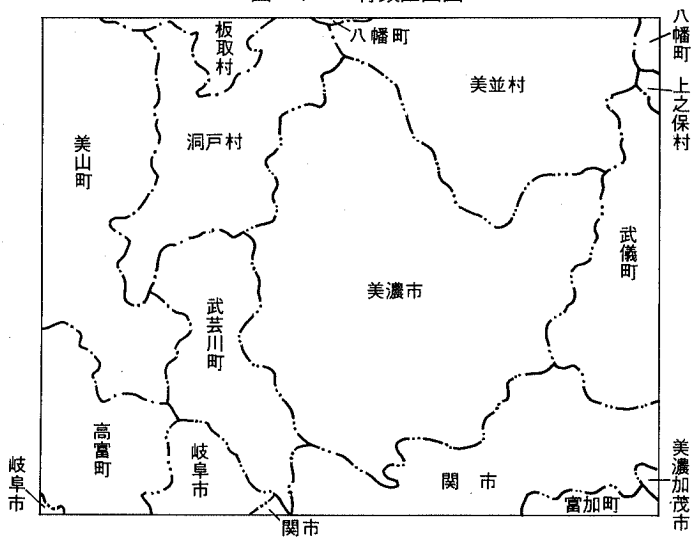
この調査の対象地域は建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「美濃」図幅である。

経緯度は、東経 $136^{\circ} 45'$ ～ $137^{\circ} 00'$ 、北緯 $35^{\circ} 30'$ ～ $35^{\circ} 40'$ の範囲である。

2. 行政区画

本図幅の行政区画は、岐阜市、関市、美濃市、美濃加茂市、高富町、美山町、洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町、上之保村、八幡町、美並村、富加町の4市6町4村からなっている。(図-1 参照)

図-1 行政区画図



Ⅱ 人 口

調査区域にかかる4市6町4村の人口は623,499人（平成2年国勢調査）で県人口の30.2%を占めている。

これらの市町村では、昭和50年から平成2年までに約22,000人増加しており3.7%の増加となっているが、県平均10.6%を大きく下回っている。

表一1 人口

区 分 行政区域	昭 和 50 年		昭 和 55 年		昭 和 60 年	
	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)
岐 阜 市	408,707	116,436	410,357	124,497	411,743	127,481
関 市	53,881	13,472	59,192	15,171	64,149	17,246
美 濃 市	26,791	6,498	26,825	6,712	26,935	6,704
美濃加茂市	37,524	9,469	39,531	10,431	41,700	11,583
高 富 町	13,838	3,390	15,871	4,067	17,117	4,421
美 山 町	11,167	2,730	10,832	2,778	10,507	2,742
洞 戸 村	2,833	738	2,706	760	2,693	766
板 取 村	2,411	666	2,301	664	2,278	665
武芸川町	6,410	1,463	6,604	1,548	6,656	1,562
武 儀 町	4,882	1,160	4,758	1,155	4,685	1,130
上之保村	3,207	824	2,968	801	2,902	778
八 幡 町	19,076	5,255	18,813	5,400	18,230	5,367
美 並 村	5,520	1,186	5,586	1,260	5,563	1,242
富 加 町	5,269	1,218	5,635	1,315	5,816	1,387
計	601,516	164,505	611,979	176,559	620,974	183,074
県 計	1,867,978	483,766	1,960,107	539,740	2,028,536	567,946

これらの市町村の中で、人口増加の著しい市町村は、関市、美濃加茂市、高富町、富加町の2市2町であるが、近年その増加率は低下している。

その他の市町村は、横ばいか減少傾向にあり、特に美山町、洞戸村、板取村、上之保村、八幡町では、人口の減少率が高くなっている。

平成 2 年		人 口 増 減 (人)			人 口 増 減 率 (%)		
人 口 (人)	世帯数 (戸)	50～55年	55～60年	60～2年	50～55年	55～60年	60～2年
410,324	133,726	1,650	1,386	△1,419	0.4	0.3	△ 0.3
68,386	19,287	5,311	4,957	4,237	9.9	8.4	6.6
26,022	6,762	34	110	△ 913	0.1	0.4	△ 3.4
43,013	12,667	2,007	2,169	1,313	5.3	5.5	3.1
17,931	4,775	2,033	1,246	814	14.7	7.9	4.8
10,015	2,685	△ 335	△ 325	△ 492	△ 3.0	△ 3.0	△ 4.7
2,555	752	△ 127	△ 13	△ 138	△ 4.5	△ 0.5	△ 5.1
2,089	645	△ 110	△ 23	△ 189	△ 4.6	△ 1.0	△ 8.3
6,620	1,579	194	52	△ 36	3.0	0.8	△ 0.5
4,700	1,157	△ 124	△ 73	15	△ 2.5	△ 1.5	0.3
2,767	744	△ 239	△ 66	△ 135	△ 7.5	△ 2.2	△ 4.7
17,620	5,317	△ 263	△ 583	△ 610	△ 1.4	△ 3.1	△ 3.3
5,559	1,277	66	△ 23	△ 4	1.2	△ 0.4	△ 0.1
5,898	1,408	366	181	82	6.9	3.2	1.4
623,499	192,781	10,463	8,995	2,525	1.7	1.5	0.4
2,066,569	602,906	92,129	68,429	38,033	4.9	3.5	1.9

資料 国勢調査結果による

Ⅲ 産 業

1 農林業

地域内の市町村の総農家数は、20,482戸で、これは県下総農家数の20.6%にあたる。

また、経営耕地面積は、11,958haで県下総耕地面積の17.8%を占めている。

この地域は、畜産が農業粗生産額に占める割合が高く、中でも鶏は岐阜市、関市、美濃加茂市、富加町で多く飼育されている。(表一2)

表一2 農業の概要

行政区 区域	農 家 数				経営耕 地面積 (ha)	農 業 粗 生 産 額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専 業 (戸)	兼 業 (戸)	専 業 率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
岐 阜 市	8,214	344	7,870	4.2	4,460	15,209	3,067	4,649	5,178	2,315
関 市	2,783	82	2,701	2.9	2,070	5,010	1,453	747	2,583	227
美 濃 市	1,036	33	1,003	3.2	566	1,227	321	371	317	218
美濃加茂市	2,403	140	2,263	5.8	1,620	4,362	756	812	1,979	815
高 富 町	1,193	22	1,171	1.8	703	1,559	507	199	764	89
美 山 町	584	18	566	3.1	303	588	125	78	326	59
洞 戸 村	252	9	243	3.6	95	196	37	27	106	26
板 取 村	161	5	156	3.1	82	58	29	20	0	9
武芸川町	503	12	491	2.4	252	244	155	45	5	39
武 儀 町	637	32	605	5.0	267	257	135	58	36	28
上之保村	410	9	401	2.2	171	154	63	30	27	34
八 幡 町	1,154	34	1,120	2.9	674	1,269	376	182	577	134
美 並 村	646	6	640	0.9	270	392	170	100	78	44
富 加 町	506	31	475	6.1	425	1,765	219	254	1,116	176
計	20,482	777	19,705	3.8	11,958	32,290	7,413	7,572	13,092	4,213
県 計	99,394	4,335	95,059	4.4	67,200	161,628	44,180	39,028	55,315	23,105

資料 岐阜県農林水産統計年報 (平成3～4年) による

農家数は「1990世界林業センサス」結果による(兼業農家には、自給的農家を含んでいる)

林業については地域内の林野面積が104,157haで県下林野面積の12.0%となっている。

また、民有林の比率は97.8%と県平均の79.1%を大きく上回っており、美山町、洞戸村、上之保村、美並村、八幡町では人口林比率も高くなっている。

(表-3)

表-3 林業の概要

区分 行政 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
岐 阜 市	6,248	224	181	5,843	4,679
関 市	4,420	0	142	4,278	1,640
美 濃 市	9,419	443	320	8,656	1,074
美濃加茂市	3,207	18	110	3,079	1,063
高 富 町	2,442	—	4	2,438	659
美 山 町	14,531	656	607	13,268	935
洞 戸 村	3,558	65	24	3,469	256
板 取 村	18,264	412	1,079	16,773	436
武 芸 川 町	2,027	237	206	1,584	221
武 儀 町	5,816	63	482	5,271	616
上 之 保 村	4,415	—	270	4,145	507
八 幡 町	22,334	141	466	21,727	1,590
美 並 村	6,999	71	621	6,307	887
富 加 町	477	—	2	475	156
計	104,157	2,330	4,514	97,313	14,719
県計	870,667	182,352	69,494	618,821	64,537

資料 平成2年度岐阜県林業統計書による

林家数は、「1990世界農林業センサス、林業事業者調査」の結果による

2 工 業

この地域の事業所数は、県下総数の32.6%にあたる8,646事業所であり、従業員数は69,163人で県総数の23.8%を占めている。

また、年間製造品出荷額は1兆3,613億円で県全体の22.4%となっており、岐阜市、関市、美濃加茂市でその大半を占めている。（表—4）

表—4 工業の概要

区分 行政区域	事業所数				従業者数(人)			年間製造品 出荷額等 (百万円)
	総数	会社	組合 その他 の法人	個人	総数	常 勤 用 者	個人事業 主及び家 族従業者	
岐阜市	3,918	1,226	105	2,587	30,433	26,336	4,097	524,511
関市	1,929	562	8	1,359	14,863	12,787	2,076	267,327
美濃市	764	181	5	578	5,096	4,097	999	95,219
美濃加茂市	363	171	2	190	7,056	6,755	301	295,835
高富町	254	64	5	185	1,662	1,378	284	23,217
美山町	403	63	—	340	2,395	1,804	591	37,372
洞戸村	74	9	—	65	497	372	125	7,555
板取村	66	7	—	59	245	125	120	889
武芸川町	237	57	—	180	1,439	1,104	335	22,539
武儀町	146	32	—	114	846	651	195	5,942
上之保村	52	9	1	42	312	248	64	3,224
八幡町	217	77	3	137	2,121	1,921	200	26,011
美並村	109	32	—	77	1,101	1,001	100	28,109
富加町	114	34	—	80	1,097	977	120	23,585
計	8,646	2,524	129	5,993	69,163	59,556	9,607	1,361,335
県計	26,548	9,024	288	17,236	291,118	262,984	28,134	6,071,619

資料 平成3年工業統計調査結果による

3 商 業

商店数は、13,791店舗で県下総商店数の36.9%、また、年間販売額は3兆1,895億円で県全体の49.0%となっており、岐阜市がその大半を占めている。

(表—5)

表—5 商業の概要

区 分 行政 区域	商 店 数			従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)
	総 数	卸売業	小売業		
岐 阜 市	10,121	3,674	6,447	56,609	2,789,705
関 市	1,209	286	923	5,581	188,055
美 濃 市	426	65	361	1,497	26,427
美濃加茂市	780	140	640	3,800	120,232
高 富 町	192	22	170	621	10,822
美 山 町	157	18	139	429	8,375
洞 戸 村	53	2	51	207	2,121
板 取 村	33	1	32	56	455
武芸川町	80	11	69	265	4,389
武 儀 町	62	2	60	169	2,086
上之保村	44	2	42	105	1,334
八 幡 町	479	59	420	1,553	28,357
美 並 村	87	3	84	222	2,704
富 加 町	68	7	61	253	4,401
計	13,791	4,292	9,499	71,367	3,189,463
県 計	37,346	8,837	28,498	179,844	6,515,201

資料 平成3年商業統計調査結果による（代理商・仲立業を除く）

各 論

I 地形分類

1 地形概説

本図幅の山地は富山から伊勢湾に至る地域に分布する曲降性の山地である美濃山地、美濃越前山地のうちの後者の南東部に位置している。これらの山地や河谷は中部地方の地殻運動や断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に配列する特徴を有している。美濃越前山地は一般的には壮年期の定高性の山地を形成すると言われているものの、本図幅南端部の山地は適応単位丘の孤立化の顕著な山地を形成している。この山地は中・古生界のチャート、砂岩、頁岩、泥岩などの互層からなり、地質構造を反映して、風化・侵蝕に対する抵抗性の差異に起因した組織地形がみられる。これらの組織地形は稜部と凹部とが交互に配列し、局部的には舟窪状の形態を示す数個の地形単位から成り立つが、本図幅内にはこれらの内の西端部が位置している。

また、本図幅の南西部の山地には地震災害的には危険度がA級の左横ずれ活断層である根尾谷断層系の断層や武儀川断層が位置している。明治24年10月に、この山地内の根尾谷から濃尾平野を突然襲った濃尾地震は各地で地震断層を発生させ大被害をもたらした。これが根尾谷断層系の最も新しい地震断層である。従って、本図幅内には根尾谷断層系の活断層がもたらした断層地形やこれに類似する断層地形及び地形的断層線を想定させるリニアメントが卓越してゐる。濃尾地震時には本図幅の南西端に位置する山県郡高富町梅原から東深瀬に至る地域に地震断層が発生し、鳥羽川（長良川水系、伊自良川の支流）の上流側が陥没したために河川水の逆流とダムアップ現象による湛水域が一時的に形成された。

丘陵は本図幅の南東端部に一部位置する。蜂屋層の侵蝕面からなる丘陵と土岐砂礫層相当層と考えられる堆積物からなる丘陵であるが、開析が進み谷底平野が丘陵中に深くくいこみ支尾根が発達している。

本図幅の南端部は美濃越前山地と沖積平野である濃尾平野への移行部に位置する。このために長良川の支川の武儀川や伊自良川の沖積平野が一部分布

する。

大河川が内湾に流入するようなところに形成された沖積平野にはこれを構成する全ての地形がみられる場合が多い。濃尾平野はこのような沖積平野の典型例でもあるので、扇状地帯域、自然堤防と後背湿地の卓越する帯域、三角州帯域の地形域からなり、各地形域は複数の単位地形から成り立っている。本図幅の南端部に位置する武儀川と伊自良川の沖積平野もまた、小規模ながら両河川によって形成された扇状地帯域、及び自然堤防と後背湿地の卓越する帯域からなる両地形域が認められ、本図幅の南端部は両地形域の移行部にあたる地域である。このうち後者の地形域からなる地域は往時から洪水時の水害の常襲地として人間の居住空間からは取り残されてきた。

また、本図幅の山地内には断層起因の山間小谷底と考えられる地形が存在するが、これらの地形には有機物に富んだ泥質堆積物（軟弱層）が厚く堆積している場合が多い。

2 山 地

本図幅の山地は上述したように富山から伊勢湾に至る地域に分布する曲降性の山地である美濃越前山地の南東部に位置し、山地内の河谷は中部地方の断層運動の特徴を反映して全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に流れる特徴を有する。このために、本図幅内の美濃越前山地はこれらの河谷によって区分された小山塊に細分される。

本図幅内の山地をここでは便宜的に美濃越前山地、美濃権現山山地、伊自良山地、郡上・美濃山地と上之保山地に細分した。

(1) 美濃越前山地 (Ia)

美濃越前山地は能郷白山（1617m）を主峰とし、それらの頂稜部が海拔高度1200m～1400m内外の定高性の壮年期山地で、日本海側と太平洋側との地形的・気候的分水嶺を形成している山地であるが、本図幅にはそのうちの南東部の1000m内外の山地が含まれている。山稜線や河谷の方向は北西～南東と北東～南西方向のものが卓越している。

(2) 美濃権現山山地 (Ib)

美濃権現山山地はその北端を板取川、東端を長良川本流、西端を洞戸村市場から美山町徳永を結ぶ地形的断層線、南端を武儀川で境された短冊型の山塊からなる山地であり、北西から南東方向にその高度を漸減する山地である。武儀川で境される南端部山地には活断層である武儀川断層が北西から南東方向に位置しているために、武儀川沿いには三角末端面など、急峻な山腹斜面からなる断層地形が顕著に分布している。

(3) 伊自良山地 (Ic)

伊自良山地は根尾川、武儀川、長良川によって境された山地である。行政単位的には本巢郡、山県郡伊自良村、高富町、美山町と岐阜市に位置する。この山地は北西～南東方向に向かって高度を漸減する約 700m以下の山地である。岩石の選択侵蝕に起因した組織地形がみられる山地であるが、北西～南東方向と北東～南西方向に卓越した地形的、地質的弱線によって細分された小山塊化の進んだ山地でもある。このうち前者の地形的・地質的弱線が根尾谷断層系や武儀川断層に起因した弱線であり、後者がこれらの共役断層に起因した地形的・地質的弱線と想定される。これらの断層に起因した三角末端面などの活断層地形が北西から南東方向に顕著に配列している。

(4) 郡上・美濃山地 (Id)

郡上・美濃山地は西を長良川本流、北を吉田川、東、南を飛驒川の支流、馬瀬川と長良川の支流の津保川で境される北高南低の高度約1000m以下の南北稜山地であるが、本図幅では 600m未満の山地からなる。

(5) 上之保山地 (Ie)

上之保山地は飛驒川と津保川とで境される山地で、御前ヶ岳 (663.7m)、高岡山 (603m)などの山々からなる山地である。北高南低の定高性の山地で、南部にはロックコントロールによるチャートの山稜線からなる組織地形がみられる。しかし、本図幅では南西端部にのみ分布する。

3 丘陵

本図幅の南東端部に蜂屋層と土岐砂礫層相当層と考えられる堆積物からなる丘陵が分布するが、ここではその分布的特徴から一括して蜂屋丘陵とする。

(1) 蜂屋丘陵 (Ⅱa)

本図幅、南東端部の関市から加茂郡富加に至る地域にかけては美濃加茂市蜂屋に分布する蜂屋層の侵蝕面と土岐砂礫層相当層と考えられる堆積物からなる地形面が美濃越前山地の南端部に接してみられる。この地形面は開析が進み、侵蝕による小谷底平野が丘陵を形成している地形面中に深くくいこみ、支尾根の発達が顕著な丘陵となっている。

4 台地

本図幅の台地は美濃市と関市にひろがる台地と武儀川河谷に分布する台地である。両台地は長良川水系の河川によって形成された数段の河岸段丘からなる砂礫台地である。形成時期の古い段丘ほど高位に位置し、侵蝕の結果、地形面の保存状況は悪くなる。ここでは便宜的に前者を美濃・関台地、後者を武儀川台地と呼称することとする。

(1) 美濃・関台地 (Ⅲa)

この台地は長良川と木曾川とによって形成された河岸段丘からなる台地であるが、本図幅には前者によって形成された部分からなる台地が位置している。3段の河岸段丘からなる砂礫台地を形成している。このうちの上位と中位の段丘は fill top の段丘面からなるが、下位の段丘は fill strath の段丘面からなっている。

(2) 武儀川台地 (Ⅲb)

この台地は武儀川上流域から中流域にかけて分布する上下2段の河岸段丘からなる台地である。このうちの上位の段丘は上流域に、下位の段丘は上流域から中流域にかけて分布している。

5 低地

(1) 武儀川低地 (IVa)

本図幅にはこの低地の^{上流端部}が位置している。この地域は南東方向に流下していた武儀川が南西方向にその流向を変更する地域でもある。長良川は東海地方の荒れ川の一つでもあり、この流域に生活する人々にとっては洪水の繰り返しの歴史であったともいえる。このために本地域は最近でも昭和51年の9.12水害や昭和30年代の3連年災害時などには洪水による溢流、破堤や内水氾濫などの水害に見舞われたことから理解されるように、洪水時の湛水域を形成する地域でもある。

(2) 伊自良川低地 (IVb)

本図幅南西部には伊自良川の支流、鳥羽川の上流部の低地が位置している。この谷底平野は根尾谷断層系の断層谷からなるために、鳥羽川のような規模の小河川が形成した谷底平野より広い谷底平野を形成している。このために岐阜市岩利から山県郡高富に至る、いわゆる長良川の高富貫流説のような誤解をもたらした。

Ⅱ 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域に最も広く分布しているのは固結堆積物の美濃帯中・古生層であるが、地質構造の違いによって幾つかの地質単位に分けられる。図幅の南西部高富町西市場から美濃市亀野町を経て平成山の北西を通る断層線の南側は「金山図幅」「岐阜図幅」のチャート・砂岩互層の連続であり、チャート層は急峻な山地形になっているのに対し、砂岩層の分布地域はゆるやかな地形をしている。このように岩石・地層の浸食に対する抵抗力が地形に現れたものは組織地形と呼ばれている。

図幅南西部美濃市小野・神野を中心とする地域に泥質岩を主とする地層の広い分布が見られるが、この泥質岩は前述の砂岩・チャート互層とは岩相が大きく異なること、「金山図幅」にまたがる分布状態からみて、異質の岩体で両者は見掛上泥質岩上位の衝上断層関係にあると考えられる。

図幅北西端近くから洞戸村市場を経て御手洗付近まで追跡できる断層の南北でも岩相・地質構造の違いが認められる。

断層の南西側のチャートは基底が水平に近く高所を占めている。これは際立った特徴である。見掛上下位には泥質岩と砂岩が分布するが、これらは傾斜している。したがってチャート層と泥質岩・砂岩とは斜交していることになる。したがってチャートの基底は不整合か衝上断層である。この場合不整合を示す証拠はなく、岩層の対照から見て衝上断層と考えるのが妥当である。

断層の北東側には石灰岩の広い分布が見られる。この石灰岩には玄武岩溶岩・火山性砕屑物が伴っている。これらは図幅内の他の地域には見られないもので異なった地質単位と考えられる。

図幅北東部にメランジとして着色したものは泥質岩・砂岩・チャートが崩壊し再堆積したもので金山図幅から連続するものである。洞戸村市場、美山町笹賀付近にも小規模ながら同様の地層が分布する。

図幅北部中央には、中・古生界を覆って流紋岩質岩石が広く分布している。花崗岩は洞戸村高賀付近に分布し、前述の地層・岩体を貫き、これらに著

しい熱変質作用を与えている。

斑岩類の分布には特徴があり、図幅北半分に北東—南西方向に並行して点在している。

図幅南東隅には「土岐砂礫層」と呼ばれる新第三紀の半固結の砂礫層が僅かに分布している。

美濃市の林業センター付近の半固結の砂礫層は高位段丘堆積物であろう。

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

a) 礫がち堆積物 (g)

この図幅で礫がち堆積物としたものは、長良川・板取川・武儀川およびそれらの支谷を埋積して分布する沖積層および河岸段丘堆積物である。ほとんどが耕作地あるいは宅地として利用されている。

b) 碎屑物 (cl)

山間部に点在するものと長良川・板取川ぞいのものがある。図幅中央部美濃市蕨生のものは板取川の旧流路、図幅北東部の八幡町上荊安と大矢に分布するものは長良川の旧流路が埋め立てられたものであろう。

(2) 半固結堆積物

a) 礫および粘土 (gc)

本堆積物は瀬戸層群上部の土岐砂礫層に該当する。図幅内では南東隅に僅かに分布する。チャート・濃飛流紋岩などの礫を主体とする礫層であるがチャート以外の礫はスコップで削れるぐらいに風化している。

美濃市にある林業センター付近のものは地形・岩相から高位段丘堆積物と考えられる。

(3) 固結堆積物

a) 砂岩 (ss)

東隣の「金山図幅」・南隣の「岐阜図幅」に比べ分布は狭い。チャート分布地域にくらべ相対的になだらかな地形をなすことが多い。

砂岩は本来強硬な岩石であるが風化が進みもろくなっていることが多い。

b) 泥質岩 (sh)

チャートとともに図幅内で最大の分布をしている。泥質岩優勢の泥岩・砂岩互層の崩壊したものが圧倒的に多く、均質な泥質岩は少ない。風化が進みもろくなっていることが多い。

c) チャート (ch)

図幅内の分布は広い。極めて強硬で風化に強いいためチャートの分布域は急峻な山地を成すことが多い。地形図上露岩の記号のあるところはチャートであることが多い。厚さ3～5 cmの層が薄い泥質物をはさんでくりかえし互層し、小褶曲をすることが多い。

d) 礫岩 (cg)

和田野礫岩と呼ばれるもので「金山図幅」からのつづきとして図幅東辺中央部に僅かに分布する。砂岩・頁岩・チャート・緑色岩・石灰岩などの中礫が主体である。

e) メランジ (m)

図幅東北部に分布するものと西部の断層ぞいに小規模に分布するものがある。泥質の基質中に砂岩・チャート・石灰岩などのブロックが雑然と入っている。成因についてはいろいろ考えられるが、図幅内のは海底での地滑りによるものであろう。

f) 石灰岩 (ls)

図幅北西隅に大岩体として分布するものの外に、和田野礫岩に伴うもの、

長良川ぞいの美濃市須原付近の砂岩層に伴うもの、洞戸村市場付近及び美山町笹賀付近のメランジの中のものがあるが分布は極めて小さい。

g) 玄武岩溶岩および火山性碎屑岩 (sch)

かつての大洋底に噴出した玄武岩溶岩と凝灰質碎屑物の残片と考えられている。緑灰色のことが多く、かつては輝緑凝灰岩と呼ばれていた。その色調から単に緑色岩と呼ぶことが多い。上記の石灰岩と密接に伴って産出することが多い。

(4) 火山性岩石

a) 流紋岩質岩石 (Ry)

奥美濃酸性岩類中洞戸岩体に属するものが、図幅北西部に広く分布する。石英、斜長石、カリ長石の結晶片を多量に含み、少量の有色鉱物を伴う流紋岩質～流紋デイサイト質の溶結凝灰岩が主体で下位に非溶結部分を伴う。非溶結部分はおもに凝灰角礫岩ないし火山角礫岩、非溶結の凝灰岩類や凝灰質砂岩、泥岩などからなり、薄い溶結凝灰岩を伴う。全体に堅硬である。

(5) 深成岩

a) 花崗岩質岩石 (Gr)

図幅北部の洞戸村高賀付近に東西4 km、南北3 kmの規模で分布する。本岩は流紋岩質岩石と美濃帯構成岩類を貫き、これらに著しい熱変成作用を与えている。優白色の中粒塊状黒雲母花崗岩—花崗岩からなり、しばしば暗灰色細粒相をゼノリス状に含む。全体に花崗斑岩相が卓越する。高賀花崗岩と呼ばれている。

b) 花崗斑岩 (Gp)

図幅北半分に北東—南西方向に並行して点在している。閃緑ひん岩・石英斑岩等を一括して示した。堅硬な岩石として産する。

3 資 料

- 1) 足立守・水谷伸治郎 (1971) 美濃帯古生層のsole markings と古流系について. 地質学論集, no. 6, p. 39—48.
- 2) 梶田澄雄・浜田和男・瀬瀬澄男 (1972) 岐阜県石灰洞資料 (3). 岐阜大学教育学部研究報告—自然科学—Vol. 5 No. 1, p49—56.
- 3) Mizutani, S. (1964) Superficial folding of the Palaeozoic system of central Japan. Jour. Earth Sci. Nagoya Univ. vol.12, p. 17—83.
- 4) 棚瀬充史 (1982) 奥美濃酸性岩類—両白山地における白亜紀火成作用地質学雑誌. vol. 88, p. 271—288.
- 5) 脇田浩二 (1985) 美濃帯中・古生界における研究史と最近の研究動向. 地球科学 vol. 39, p. 18—30.
- 6) Wakita, K. (1988) Early Cretaceous melange in the Hida-Kanayama area, central Japan. Bull. Geol. Surv. Japan, vol. 39, p. 367—408.
- 7) ————— (1988) Origin of chaotically mixed rock bodies in the Early Jurassic to Early Cretaceous sedimentary complex of the Mino terrane, central Japan. Bull. Geol. Surv. Japan, vol. 39, p. 675—742.
- 8) 山田直利・河田清雄・諸橋毅 (1971) 火砕流堆積物としての濃飛流紋岩. 地球科学, vol. 25, p. 52—88.

Ⅲ 土 壤

林 地 土 壤

本図幅の地形は、北部で標高が高く南部になるにしたがって低い。北部に起伏量の大きい美濃山地、中部に美濃高地、南部に西美濃丘陵、東濃丘陵、関盆地が分布する。美濃山地には、図幅で最も標高が高い瓢ヶ岳1,162mがある。主な河川は、長良川が図幅東部を北から南へ蛇行して流れている。この支流の板取川、武儀川は、ほぼ北西から南東に流下している。

地質は、南部を中心に中、古生界の堆積岩が広く分布する。北部には、面谷流紋岩類、花崗岩、花崗斑岩類が分布する。

本図幅に出現する土壌は、地形、地質構造と密接な関係を示し、表一 土壌統一覧表のとおり4土壌群、8土壌統群に分けられる。褐色森林土が広く分布し、大部分の面積を占める。岩石地は、チャートの露岩地に小面積分布する。岩屑土は、面谷流紋岩類の急な斜面の下部に小面積分布する。未熟土は、長良川の河川堤防内に小面積分布する。

1 岩石地

岩石地は、チャートが露岩する地域まで小面積分布する。植生は、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ソヨゴ、ウスノキ、ネジキ、ヒトツバ、ススキ、コシダ等が生育する。図幅の東部、南部に小面積分布する。

2 岩屑土

岩屑性土壌は、面谷流紋岩類の急斜面の崖錐に分布し、20cm～数mの角礫が表層に厚く堆積する。植生は、疎林となることが多く、タニウツギ、ネジキ、シロモジ、クリ、ソヨゴ、リョウゴ、アラカシ、ススキ、ミヤコザサ等が生育する。図幅の北部に小面積分布する。

3 未熟土

未熟土は、河川堤防内に分布し、流水により移動堆積した径約20cmの円礫と砂によって構成されている。植生は、コナラ、アベマキ、ハンノキ、ススキ、ネザサ等が生育する。図幅の南部に小面積分布する。

4 褐色森林土

褐色森林土は、本図幅の大部分を占める。主に尾根と斜面上部では、乾性褐色森林土壌が分布する。乾性赤色系褐色森林土壌は、主に丘陵頂部に小面積分布する。斜面中、下部では、褐色森林土壌が広く分布し、わずかに赤色系褐色森林土壌が分布する。湿性褐色森林土壌は、谷頭、斜面下部に小面積分布する。

(1) 乾性褐色森林土壌

乾性褐色森林土壌は、B_A、B_B、B_C、型土壌に相当し、貝戸1統、曾木統、高戸山1統、片知1統の4統が分布する。

乾性褐色森林土壌は、土層上部で乾性な細粒状、粒状、堅果状構造が発達する。花崗岩類に分布する高戸山1統、チャートに分布する曾木統は、B_A型土壌の分布が多く、土層も薄いため、とりわけ生産力が低い。

植生は、大部分が天然アカマツ林である。混交する上木は、コナラ、ヒノキ、ツガ、タカノツメ、サクラ類等が生育する。下層植生は、モチツツジ、ヤマツツジ、コバノミツバツツジ、アセビ、タムシバ、イヌツゲ、ソヨゴ、コウヤボウキ、ネジキ、ツバキ、コバノガマズミ、ネザサ、コシダ、ウラジロ等が生育する。

① 貝戸1統

主に中、古生界の砂岩、頁岩、チャート、石灰岩等を母材として、山地の尾根に分布する残積性の土壌である。A₀層はF、H層が厚く発達する。A層、B層は、粒状構造が発達する。土性は砂壤土から埴壤土である。図幅の北西部に分布する。

② 曾木統

主に中、古生界の砂岩、泥岩、チャート等を母材として、丘陵、山地の尾根に分布する残積性の土壌である。A_o層は、F、H層が厚く発達する。A層、B層は、細粒状構造、粒状構造が発達する。チャートのヤセ尾根では、A層に菌糸網層の発達した細粒状構造となるB_A型土壌が多い。丘陵に分布する土壌では、赤色風化の影響を受け、比較的赤色の強い土壌が斑状に出現することがある。土性は主に埴壤土である。図幅の全体に分布する。

③ 高戸山1統

花崗岩類、花崗斑岩類を母材として、山地の尾根、斜面上部に分布する残積性の土壌である。A_o層は厚く、F層がよく発達する。A層は5 cm以下であまり発達しない。A層、B層で細粒状構造が主に発達する。花崗岩類が母材の場合には、土性は砂土のことが多い。図幅の北部に分布する。

④ 片知1統

面谷流紋岩類を母材として、山地の尾根、斜面上部に分布する残積性の土壌である。B_A、B_B型土壌では、A_o層が厚く、A層が薄く発達しないことが多い。B_C型土壌では、A_o層が薄く、A層が約20cmと比較的厚い。特に乾性の強い土壌では、A層の発達が悪くH—A層となる。土性は埴壤土から埴土である。図幅の北部に分布する。

(2) 乾性赤色系褐色森林土壌

乾性赤色系褐色森林土壌は、rB_A、rB_B、rB_C型土壌に相当し、雨乞1統、大藪統の2統が分布する。

乾性赤色系褐色森林土壌は、赤色風化の影響からB層が赤褐色であり、A層、B層上部が乾性な細粒状、粒状、堅果状構造により特徴づけられる。生産力は非常に低い。

この土壌として図示した部分には、B層で赤色系褐色森林土壌よりもさらに赤みの強い乾性赤色土壌が小面積混在する。

植生は、主にアカマツ天然林で、アカマツに混交する上木は、ヒノキ、コナラ、アベマキ、リョウブ等である。植林地の場合には、ヒノキ林となる。下層植生は、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ヒノキ、ネズミサシ、ソヨゴ、アセビ、イヌツゲ、ネジキ、ウスノキ、ヤマウルシ、ネザサ、サルトリイバラ、シシガシラ、コシダ等が生育する。

① 雨乞1統

主に中、古生界の砂岩、チャートを母材として、丘陵、山地の緩傾斜の尾根に分布する残積性の土壌である。A₀層は、一般に厚く発達するが、林地利用が多くて未熟土の傾向が強い場合には厚くならない。A層は粒状構造で薄い。B層下部は塊状構造の発達することが多い。土性は、A層、B層上部が埴壤土、B層下部が埴土である。図幅の東部、南部に小面積分布する。

② 大藪統

新第三系未固結堆積物を母材として、丘陵の緩傾斜の頂部に分布する残積性の土壌である。A₀層は、一般に厚く発達するが、林地利用が多く未熟土のな土壌では発達しない。A層は粒状構造であり厚くない。B層は塊状構造の発達することが多い。石礫は、円礫でクサリ礫も分布する。土性はB層上部が埴壤土で、B層下部が埴土である。図幅の東部に小面積分布する。

(3) 褐色森林土壌

褐色森林土壌は、B_D、B_D(d)型土壌に相当し、貝戸2統、久田見統、高戸山2統、片知2統の4統が分布する。

褐色森林土壌は、主にA層で団粒状構造が発達することにより特徴づけられ、生産力が高い。貝戸2統は、とりわけ生産力が高い。

植生は、コナラ林、アベマキ林、コナラとアカマツの混交林等の天然林、又は、スギ、ヒノキ植林地が多い。混交する上木は、アラカシ、クリ、リョウブ、サクラ類等である。下層植生は、アオキ、チャ、ツバキ、サカキ、シキミ、ヒサカキ、アラカシ、シロモジ、クロモジ、バイカツツジ、コアジサ

イ、ネザサ、ショウジョウバカマ、ジャノヒゲ、シシガシラ、ベニシダ、キジノオシダ等が生育する。

① 貝戸2統

主に中、古生界の砂岩、頁岩、石灰岩、チャート等を母材として、山地の緩い尾根、斜面に分布する土壌である。A₀層は、F層が発達する場合があるが、一般に発達しない。A層は一般に団粒構造が発達する。斜面下部は一般に礫が多い。土性は壤土から埴壤土である。図幅の北部に分布する。

② 久田見統

主に中、古生界の砂岩、チャート等を母材として、丘陵、山地の斜面に分布する土壌である。A₀層はほとんど発達しない。A層は、一般に斜面中、上部で団粒状から粒状、塊状構造が発達する。斜面下部では団粒状構造が発達する。石礫は、一般に角礫が多い。土性は壤土から埴壤土で土層下部ほど埴質が強い。図幅の全体に分布する。

③ 高戸山2統

花崗岩類、花崗斑岩類を母材として、山地の斜面中、下部に分布する。A₀層は、ほとんど発達しない。A層は比較的厚い。A層上部は黒く団粒状から粒状構造が発達する。B層は塊状構造の発達することが多い。土性は砂壤土から埴壤土である。図幅の北部に分布する。

④ 片知2統

面谷流紋岩類を母材として、山地の斜面中、下部に分布する。A₀層はほとんど発達しないことが多い。A層は、比較的厚く、A層上部では黒く、団粒状構造の発達することが多い。B層では構造なしが多い。石礫は、溶結凝灰岩母材の土壌では多く、非溶結凝灰岩母材の土壌では少ない。土性は壤土から埴壤土である。図幅の北部に分布する。

(4) 赤色系褐色森林土壌

赤色系褐色森林土壌は、 rB_D 、 $rB_D(d)$ 型土壌に相当し、雨乞2統が分布する。

赤色系褐色森林土壌は、赤色風化の影響がある赤褐色のB層と、A層の団粒状構造により特徴づけられる。

植生は、主にアカマツ天然林またはヒノキ人工林である。天然林は、上木にヒノキ、コナラ、アベマキ、リョウブ、クリ、ヤマザクラ等である。下層植生は、ヒサカキ、サカキ、シキミ、ヒノキ、アセビ、イヌツゲ、ヤマウルシ、ネザサ、サルトリイバラ、シシガシラ等が生育する。

① 雨乞2統

主に中生界の砂岩を母材として、丘陵の緩斜面に分布する土壌である。A層は一般に薄いH層が発達する。A層は粒状構造で薄い。土性は壤土から埴壤土である。図幅の南部に小面積分布する。

(5) 湿性褐色森林土壌

湿性褐色森林土壌は、 B_E 、 B_F 型土壌に相当する。A層は約40cm以上と厚く、B層は、かべ状構造が発達することが多い。植生は、主にスギ、ヒノキ植林地となっているが、ヒノキ林では徳利病の被害が多い。下層植生は、マムシグサ、アオキ、ハイイヌガヤ、スゲ類、オカトラノオ、シャガ、ホトトギス類等が生育する。図幅の西部に小面積分布する。

表一 土壤統一覽表

土壤群	土壤統群	土壤統	母材	地形
岩石地	岩石地	—	—	—
岩屑土	岩屑性土壤	—	—	—
未熟土	未熟土壤	—	沖積世堆積物	河川堤防内
褐色森林土	乾性褐色森林土壤	貝戸 1 統	中、古生界堆積岩	山地尾根、斜面上部
		曾木 統	中、古生界堆積岩	山地尾根、斜面上、中部
		高戸山 1 統	花崗岩、花崗斑岩類	山地尾根、斜面上部
		片知 1 統	面谷流紋岩類	山地尾根、斜面上、中部
	乾性赤色系褐色森林土壤	雨乞 1 統	中、古生界堆積岩	丘陵地
		大藪 統	新第三系未固結堆積物	丘陵地
	褐色森林土壤	貝戸 2 統	中、古生界堆積岩	山地緩い尾根、斜面
		久田見 統	中、古生界堆積岩	山地斜面中、下部
		高戸山 2 統	花崗岩、花崗斑岩類	山地斜面中、下部
		片知 2 統	面谷流紋岩類	山地斜面中、下部
	赤色系褐色森林土壤	雨乞 2 統	中、古生界堆積岩	丘陵地、山地下部緩斜面
	湿性褐色森林土壤	—	—	山地斜面下部、谷頭、丘陵下部

農 地 土 壤

1. 地域の概要

本地域は岐阜県の中央部に位置し、美濃市、洞戸村、武芸川町、美並村及び板取村の南部、武儀町の西部、関市の北部、高富町の大半、美山町の東部、岐阜市の一部からなっている。

農地は、長良川及びその支流の板取川、武儀川及び津保川の流域及び、長良川流域の濃尾平野最北端に位置する美濃市、関市の各沖積地に分布している。

土地の利用状況は、大部分が山林、原野によって占められ、全面積に占める農地の割合は、関市が21.0%、美濃市が5.0%、武芸川町が9.4%で武儀町、板取村、洞戸村などは4%以下と少ない。

これら農地のうち、水田の大部分は濃尾平野最北端の美濃市、関市及び地域内の河川沿いに分布し、また、樹園地、桑園等の畑地は丘陵台地及び山麓傾斜地に分布しており、それぞれ水稻、野菜、果樹及び桑等が栽培されている。

土壌は地形、地勢が複雑なため多種類の土壌群が混在している。水田土壌では、灰色低地上、グライ土、多湿黒ボク土が主体となっており、以下黄色土、黒ボクグライ土も散在している。一方、畑地土壌では褐色低地土、黒ボク土、岩屑土が主体となっており、一部に黄色土も散在している。

2. 土壌統群の分布

岩屑土は美山町、洞戸村、武芸川町を主体に板取村、関市の一部にもみられ、山麓傾斜地に散在し、畑地として利用されている。

畑地として利用されている黒ボク土のうち、厚層腐植質黒ボク土は美並村に、表層多腐植質黒ボク土及び表層腐植質黒ボク土は美山町、関市、板取村、美並村に分布している。

主に水田に利用されている多湿黒ボク土のうち、厚層腐植質多湿黒ボク土は武儀町、美山町、美並村に、表層腐植質多湿黒ボク土は美山町、関市、美

濃市、美並村に分布している。

黄色土のうち、水田に利用されている細粒黄色土・斑紋ありは武儀町、美山町、洞戸村に分布している。また、畑地に利用されている細粒黄色土は武芸川町に、礫質黄色土は美山町にそれぞれ分布している。

褐色低地土のうち、細粒褐色低地土・斑紋なし及び中粗粒褐色低地土・斑紋なしは関市の一部の畑地に、また、礫質褐色低地土は武儀町、高富町、洞戸村、美山町、板取村の畑地に点在している。

灰色低地土のうち、細粒灰色低地土・灰色系は関市、美濃市、武芸川町、高富町、美並村に、中粗粒灰色低地土・灰色系又は灰褐色系及び礫質灰色低地土・灰色系は関市、美濃市、洞戸村、武芸川町、武儀町、高富町、美山町、美並村等に広く分布し、水田に利用されている。

グライ土のうち、細粒強グライ土は関市、美濃市、武芸川町、武儀町、美並村、美山町の各地に、中粗粒強グライ土は関市、高富町、武芸川町、美山町の一部に、礫質強グライ土は、関市、高富町、美並村の一部に、細粒グライ土、中粗粒グライ土は関市、高富町の一部にそれぞれ分布し、水田として利用されている。

泥炭土は高富町の一部に点在し、水田として利用されている。

3. 土壌群別細説

(1) 岩屑土 (01)

土性は、強粘質～壤質。30cm以内から砂礫層となり、山地・丘陵地斜面に分布する。排水は極めて良く、一般に土壌が浅く、桑園・樹園地等に利用されるが、表土の厚さ、有機物含量、養分の供給保持力、保水力等の面で欠陥が認められる。

(2) 黒ボク土 (03, 04, 05)

土性は、壤質～粘質。腐植含量は富む～頗る富む。母材は火山噴出物からできた土壌で、保肥力が低く、燐酸や塩基類が乏しい(03)。多湿黒ボク土(04)は台地凹部又は沖積低地凹部に分布し、不良な排水条件にできた土壌である。黒ボクグライ土(05)は、多湿黒ボク土と同様にほぼ全層がグライ層

で、下層にしばしば泥炭や黒泥が混在する。

(3) 黄色土 (10)

土性は、強粘質～壤質。腐植含量は少ない。土色は黄色味が強く、丘陵地に分布し、強酸性で塩基性に乏しい。この土壤は保肥力、養分供給力等に基本的な欠陥が認められる。

(4) 褐色低地土 (12)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が褐色を示し、微高地に分布し、排水が良く、腐植含量が少ない。

(5) 灰色低地土 (13)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が灰色又は灰褐色を示す。沖積地帯に分布するが、グライ土に比べて地下水位が低く、排水が良く、腐植含量が少ない。この土壤は保肥力が強く養分供給能に富み、高い水稻生産力を示し、本県の水田土壤としてはかなり特異的である。

(6) グライ土 (14)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、青灰色で、グライ層が現れる位置で細分化される。沖積地帯に分布し、排水が悪く、腐植含量は一部を除いて少ない。

(7) 泥炭土 (16)

主として植物遺体を母材とする。平坦低湿地、後背湿地等に出現し、地下水位が高い。作土もしくは作土直下から泥炭層となる。土地利用は水田に限定されている。

4. 市町村別土壤総群面積一覧表

(1) 水田の部

市町村名	土壤群名	土 壤 統 群 名	土壤群番号	分布面積 (ha)	備 考
高 富 町	灰色低地土	細粒灰色低地土灰色系	1306	117	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である
		中粗粒灰色低地土灰色系	1307	100	
		礫質灰色低地土灰色系	1312	3	
		灰色低地土下層有機質	1327	9	
	グライ土	細粒強グライ土	1403	90	
		中粗粒強グライ土	1405	95	
		礫質強グライ土	1413	40	
		細粒グライ土	1417	13	
			1419	50	
		中粗粒グライ土	1421	60	
	泥炭土		1601	62	
美 山 町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	22	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0437	42	
	黄色土	細粒黄色土 斑紋あり	1017	10	
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土灰褐色系	1318	10	
		礫質灰色低地土灰褐色系	1321	31	
			1322	33	
		灰色低地土下層有機有	1327	48	
	グライ土	細粒強グライ土	1404	6	
中粗粒強グライ土		1406	22		
関 市	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0430	120	同上
			0432	50	
			0433	40	
			0437	190	
	黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	0506	82	

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
	灰色低地土	細粒灰色低地土灰色系 中粗粒灰色低地土灰色系 礫質灰色低地土灰色系	1306	225	
			1307	435	
			1309	150	
			1310	190	
			1312	21	
	グライ土	細粒強グライ土 中粗粒強グライ土 礫質強グライ土 細粒グライ土 中粗粒グライ土	1401	51	
			1402	27	
			1403	76	
			1405	190	
			1413	56	
			1417	40	
			1419	10	
			1421	177	
	美濃市	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0437	
黒ボクグライ土		腐植質黒ボクグライ土	0506	49	
黄色土		細粒黄色土斑紋あり	1017	1	
灰色低地土		細粒灰色低地土灰色系 礫質灰色低地土灰色系 中粗粒灰色低地土灰褐色系	1306	123	
			1311	45	
			1312	102	
1318		41			
グライ土	細粒強グライ土	1404	66		
洞戸村	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0437	7	
	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1015	9	
	灰色低地土	礫質灰色低地土灰色系 中粗粒灰色低地土灰褐色系	1312	29	
			1318	1	
板取村	多湿黒ボク土	表層腐植質質黒ボク土	0437	11	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土灰色系 礫質灰色低地土灰色系	1309	8	
			1312	38	

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
武芸川町	灰色低地土	細粒灰色低地土灰褐色系	1316	48	
		中粗粒灰色低地土灰褐色系	1318	20	
		礫質灰色低地土灰褐色系	1321	39	
			1322	42	
	グライ土	細粒強グライ土	1403	32	
			1404	8	
		中粗粒強グライ土	1406	48	
		細粒グライ土	1420	10	
武儀町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	25	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	0506	15	
	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1017	67	
	灰色低地土	礫質灰色低地土灰色系	1312	21	
		中粗粒灰色低地土灰褐色系	1318	25	
		礫質灰色低地土灰褐色系	1321	27	
	グライ土	細粒強グライ土	1403	28	
美並村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	22	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0437	24	
	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1017	32	
	灰色低地土	細粒灰色低地土灰色系	1306	39	
		礫質粒灰色低地土灰色系	1312	34	
		細粒灰色低地土灰褐色系	1316	15	
	グライ土	細粒強グライ土	1403	12	
		礫質強グライ土	1413	29	

(1) 畑地の部

市町村名	土壌群名	土 壤 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
高 富 町	岩 屑 土		0 1 0 1	20	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土斑紋なし	1 2 0 3	64	
		礫質褐色低地土斑紋なし	1 2 0 6	63	
美 山 町	岩 屑 土		0 1 0 1	80	同上
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	87	
	黄色土	礫 質 黄 色 土	1 0 1 3	18	
	褐色低地土	礫 質 褐 色 低 地 土	1 2 0 7	19	
関 市	岩 屑 土		0 1 0 1	27	同上
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	43	
		表層腐植質黒ボク土	0 3 2 6	30	
	褐色低地土	細粒褐色低地土斑紋なし	1 2 0 2	125	
		中粗粒褐色低地土斑紋なし	1 2 0 3	151	
美 濃 市	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	81	
		表層腐植質黒ボク土	0 3 2 6	90	
			0 3 3 8	108	
洞 戸 村	岩 屑 土		0 1 0 1	31	
	褐色低地土	礫 質 褐 色 低 地 土	1 2 0 7	30	
板 取 村	岩 屑 土		0 1 0 1	30	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	20	
	褐色低地土	礫 質 褐 色 低 地 土	1 2 0 7	2	
武芸川町	岩 屑 土		0 1 0 1	34	
	黄色土	細 粒 黄 色 土	1 0 0 4	9	
	褐色低地土	礫 質 褐 色 低 地 土	1 2 0 7	53	
武 儀 町	褐色低地土	礫 質 褐 色 低 地 土	1 2 0 7	72	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
美 並 村	岩 屑 土		0 1 0 1	4	同上

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
	黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0308	23	
		表層多腐植質黒ボク土	0313	35	
		表層腐植質黒ボク土	0326	5	
			0337	27	

5. 資料

- (1) 岐阜県農業試験場（1973）水田及び畑地土壌生産分級図
- (2) 岐阜県農業試験場環境部（1979）地力保全基本調査総合成績書
- (3) 農業技術研究所科学土壌第3科（1983）農耕地土壌の分類—土壌統の設定基準及び土壌統一覧表（第2次案改訂版）—
- (4) 土壌保全調査事業全国協議会（1986）土壌断面をどう見るか
- (5) 武儀県事務所（1991）管内概況
- (6) 福富敏雄（1991）岐阜県の耕地土壌の実態と改善対策

IV 土地利用現況

1 農 地

本図幅内には、北東から南に流れる長良川及びその支流である板取川、武儀川及び鳥羽川が西から東南方向へ流れ、津保川が東から南西方向へ流れている。

農地は、これらの河川及びその支流に沿った地域に多くみられるが、比較的まとまった地区としては、美濃市南部から関市にかけての長良川沿い、美山町岩佐から関市広見にかけての武儀川沿い、高富町の鳥羽川沿い及び岐阜市北野付近がある。

これらの農地のうち、平坦地帯では稲作を中心に野菜、花き、畜産及び養蚕の複合経営が主体であり、中山間地帯においては、小規模稲作の他しいたげ、茶、キウイフルーツ等の地域特産物が生産されている。

2 林 地

本図幅内の林野率は高く、特に美山町、板取村、八幡町で90%を超え、洞戸村、武儀町、上之保村、美並村でもほぼ90%を占めている。

人工林面積率は、図幅北部の美山町、洞戸村、上之保村、美並村、八幡町で高く、津保川流域にはヒノキ、板取川流域にはスギが多く分布している。

武儀町及び上之保村では産直住宅による林業振興を図っており、上之保村の「デカ木住宅」の名はよく知られている。

天然林は、図幅北部ではコナラ、クリ等の広葉樹が多く分布し、南部では、アカマツが多く分布している。

本図幅南部は、都市近郊で交通の便も良いことから、大規模工場団地「美濃テクノパーク」をはじめ住宅造成やゴルフ場の建設などの開発が行われており、今後も増加が予想されている。

3 市街地・集落等

本図幅の北東から南に流れる長良川沿いに国道156号が走り、この沿線に美

並村、美濃市及び関市の市街地が形成されている。

また、武儀川沿いの国道418号沿線には、武芸川町及び美山町の市街地がみられる他、板取川、鳥羽川及び津保川沿いにも集落が形成されている。

鉄道は、美濃加茂市と郡上郡白鳥町を結ぶ第3セクターによる長良川鉄道が、長良川沿いに走っている。

高速道路は、図幅中央南部の美濃インターまで東海北陸自動車道が開通しており、現在、図幅北東部の美並村菟安地内に予定されている美並インターまでの間の建設工事が平成5年度の開通に向けて急ピッチで進められている。

また、本図幅南部を東西に東海環状自動車道が計画されており、今後これらの高速道路網の整備に伴い、沿線周辺の開発が進むものと予想される。

1993年3月

印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

「美 濃」

発行 岐阜県企画部地域振興課

〒500 岐阜市藪田南2-1-1

電話 (0582) 72-1111

印刷 日新印刷株式会社

岐阜市蔵前2丁目3番1号